

LexisNexis PatentSight+ Summit 2025 講演内容推測レポート

「アミノサイエンス®を核とした知財戦略の進化と価値創造」

講演者：味の素株式会社 執行理事 知的財産部長 泉井 裕 氏

Manus

1. はじめに

本レポートは、2025年5月28日に開催予定のLexisNexis PatentSight+ Summit 2025における、味の素株式会社 執行理事 知的財産部長 泉井裕氏による講演「アミノサイエンス®を核とした知財戦略の進化と価値創造」の内容を、公開情報をもとに推測したものです。

泉井氏は1992年に味の素に入社し、アミノ酸生産の研究開発からキャリアをスタートさせ、アミノ酸事業開発、米国での新事業開発、バイオ技術関連の事業開発、R&Dマネジメントなど、研究開発と事業の両面で豊富な経験を積み、2023年7月より現職に就任しています。このような経歴から、研究開発と事業の両面から知財戦略を語る事ができる人物であると考えられます。

2. 講演の全体構成（推測）

講演タイトルと公開されている概要から、以下のような構成で講演が行われると推測されます。

- 味の素グループのASV経営と知的財産の位置づけ
- ASV（Ajinomoto Group Shared Value）を通じた社会価値と経済価値の共創
- Well-beingへの貢献における知的財産の役割
- アミノサイエンス®の概要と競争力の源泉
- アミノ酸研究の歴史と技術の進化
- アミノサイエンス®から生まれる多様な事業領域
- 知財戦略の進化と事業成長の関係

8. 創業期からの知財重視の企業文化
9. 事業ポートフォリオの変化に応じた知財戦略の進化
10. **事業（Business）・研究開発（R&D）・知的財産（IP）の連携強化**
11. 三位一体の連携モデルと実践事例
12. 連携による価値創造の加速
13. **戦略的知財ポートフォリオの構築と活用事例**
14. 調味料・アミノ酸生産技術における参入障壁構築
15. ファンクショナルマテリアルズ事業（ABF）の成功事例
16. バイオファーマサービス事業（AJICAP®）のライセンスモデル
17. **知的財産のビジネス活用の進化**
18. 特許価値と事業利益率の相関関係
19. グローバル展開を支える知財戦略
20. **今後の展望と課題**
21. 2030ロードマップ実現に向けた知財戦略の方向性
22. 社会価値と経済価値の共創における知財の役割

3. 講演内容の詳細推測

3.1 味の素グループのASV経営と知的財産の位置づけ

講演の冒頭では、味の素グループのASV経営における知的財産の位置づけについて説明され、と考えられます。ASVとは「Ajinomoto Group Shared Value」の略で、事業を通じた社会価値と経済価値の共創を目指す経営モデルです。

泉井氏は、人・社会・地球のWell-beingに貢献するという味の素グループのビジョンを実現する上で、無形資産が有機的につながり生まれる知的財産の強化が非常に重要であることを強調するでしょう。特に、ASV価値創造プロセスの源泉となる無形資産（技術、組織、人材、顧客など）から生まれる知的財産（特許権・商標権など）が、参入障壁と競争優位性の最大化につながり、企業価値向上に貢献していることを説明すると思われます。

3.2 アミノサイエンス®の概要と競争力の源泉

次に、味の素グループの競争力の源泉であるアミノサイエンス®について詳しく説明されるでしょう。アミノサイエンス®とは、アミノ酸に関わる技術力およびそれを事業化・商品化する力を指します。

泉井氏は、1908年の「うま味」の発見から始まる味の素の歴史を振り返り、グルタミン酸がアミノ酸の一種であることの発見から、アミノ酸研究の深化、そして現在のアミノサイエンス®へと発展してきた道のりを紹介すると思われます。また、アミノサイエンス®から生まれる様々な事業領域（調味料・食品、ヘルスケア、電子材料など）について触れ、その広がり可能性を示すでしょう。

特に、アミノサイエンス®から様々な発明・差別化技術が生まれ、それらを広範な領域で特許として権利化することにより、高い競争優位性や参入障壁の構築に貢献していることを、具体的な数字（特許保有数約4,000件など）を交えて説明すると考えられます。

3.3 知財戦略の進化と事業成長の関係

続いて、味の素グループの知財戦略の進化と事業成長の関係について語られるでしょう。

泉井氏は、創業当時からの知的財産（特許権・商標権）を大事にしてきた味の素の企業文化について触れ、事業の創出とグローバル展開を知財戦略が支えてきた歴史を紹介すると思われます。また、事業ポートフォリオの変化（調味料・食品からヘルスケア等への拡大）に応じて知財戦略も進化してきたことを、セグメント別・エリア別の特許保有割合の変化などのデータを用いて説明するでしょう。

特に、食品業界における他社牽制力ランキングで味の素が継続して高い評価（過去10年で9回1位）を得ていることを示し、知財戦略の強みが事業の競争力につながっていることを強調すると考えられます。

3.4 事業（Business）・研究開発（R&D）・知的財産（IP）の連携強化

講演の中核部分として、事業（Business）・研究開発（R&D）・知的財産（IP）の連携強化について詳しく説明されるでしょう。

泉井氏は、これら三者の連携が味の素グループの知財戦略の特徴であり、R&D・事業戦略と知財戦略が常に同期し、協働して戦略を立案・遂行することで、新領域での事業確立を実現していることを強調すると思われます。

具体的な事例として、ABF（味の素ビルドアップフィルム®）の開発におけるR&D部門と知財部門の一体化した取り組みが紹介されるでしょう。技術開発戦略と知財戦略を常に同期させることで高速開発システムを実現し、デファクトスタンダードのポジションを継続していることが説明されると考えられます。

3.5 戦略的知財ポートフォリオの構築と活用事例

次に、戦略的な知財ポートフォリオの構築と具体的な活用事例について詳しく紹介されるでしょう。

泉井氏は、以下のような事例を取り上げると考えられます：

1. **調味料・アミノ酸生産技術における参入障壁構築：** 調味料・アミノ酸事業のグローバル展開を支える生産技術について、原料の糖から発酵工程、単離精製工程まで製造全工程を通して要所となる技術の特許化し、高い参入障壁を構築していることを説明するでしょう。また、後発の参入者による特許侵害に対して断固たる姿勢で対応し、米国、欧州、日本などで勝訴・和解金を獲得してきた実績も紹介されると考えられます。
2. **ファンクショナルマテリアルズ事業（ABF）の成功事例：** ABFの開発におけるR&D部門と知財部門の一体化した取り組みと、関連技術の進化、横展開、次世代技術開発への取り組みについて説明されるでしょう。ABF関連特許件数・特許価値の推移や、ABFコアテクノロジーの展開（磁性材料、ABF-RCC、封止剤、光電融合パッケージなど）についても触れられるとされます。
3. **バイオフィーマサービス事業（AJICAP®）のライセンスモデル：** 製薬メーカーごとに最適なADC（抗体薬物複合体）を創成するための味の素独自のプラットフォーム技術AJICAP®について説明されるでしょう。物質特許は顧客が保有し、味の素特許の使用権を顧客ごとにライセンスすることで顧客に最適な製造プロセスを提供するビジネスモデルが紹介されると考えられます。

3.6 知的財産のビジネス活用の進化

続いて、知的財産のビジネス活用の進化について語られるでしょう。

泉井氏は、特許ポートフォリオを強化した事業領域（特にファンクショナルマテリアルズとバイオフィーマサービス）においては、特許価値と事業利益率との間に相関関係が見られることを示し、知財戦略が事業成果に直結していることを強調すると思われます。

また、グローバル展開を支える知財戦略についても触れ、エリア別特許保有割合の変化（日本中心から海外へのシフト）や、グローバルな知財紛争への対応実績なども紹介されるでしょう。

3.7 今後の展望と課題

講演の締めくくりとして、今後の展望と課題について語られるでしょう。

泉井氏は、2030ロードマップ実現に向けた知財戦略の方向性として、事業モデル変革（BMX）による成長へのシフトを着実に図っていくために、知財戦略をさらに進化させ、知財戦略を支える基盤を強化していくビジョンを示すと思われます。

また、社会価値と経済価値の共創における知財の役割についても触れ、アミノサイエンス®を核とした知財戦略が、人・社会・地球のWell-beingにどのように貢献していくのかについての展望を語って講演を締めくくります。

4. 結論

泉井裕氏の講演「アミノサイエンス®を核とした知財戦略の進化と価値創造」は、味の素グループの知財戦略の強みと進化の過程を、具体的な事例とデータを交えて紹介するものになると推測されます。

特に強調されるポイントは以下の通りです：

1. アミノサイエンス®という独自の科学的アプローチが味の素グループの競争力の源泉であること
2. 事業（Business）・研究開発（R&D）・知的財産（IP）の三位一体の連携が知財戦略の特徴であること
3. 戦略的な知財ポートフォリオの構築により、高い参入障壁と競争優位性を実現していること
4. 知的財産のビジネス活用が事業成果に直結していること
5. 社会価値と経済価値の共創を通じたWell-beingへの貢献において知財戦略が重要な役割を果たしていること

この講演は、知財戦略を企業価値向上につなげるための具体的なアプローチを示す貴重な機会となるでしょう。

参考情報

- ・ 味の素株式会社公式サイト 知的財産ページ
- ・ 味の素グループの知財戦略を通じた企業価値向上の実現（2023年9月4日 IR Day資料）
- ・ LexisNexis PatentSight+ Summit 2025 公式サイト
- ・ 食品業界 他社牽制力ランキング2022（Patent Result社）